

ジンベイザメ 日本周辺

Whale Shark, *Rhincodon typus*

管理・関係機関

絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約 (ワシントン条約、CITES)

最近一年間の動き

世界的に特に目立つ動きはなく、日本周辺での出現報告は2004年は少なく、2005年はそれよりは多い。

生物学的特性

- 寿命: 調査中
- 成熟開始年齢: 調査中
- 繁殖期・繁殖域: 熱帯の外洋域?
- 索餌場: 熱帯・温帯域
- 食性: プランクトン、小魚(イワシ、サバなど)
- 捕食者: 調査中

利用・用途

フカヒレ・肉は食用になるが、日本ではほとんど利用されない。まき網・竿釣りのさめ付き操業の指標となる。近年、多くの水族館で飼育・展示される。

漁業の特徴

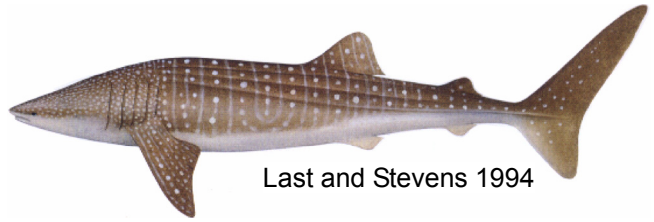
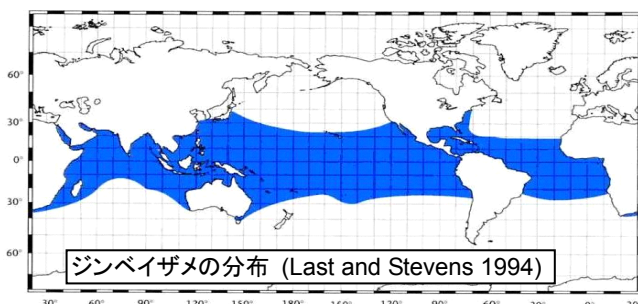
我が国では本種を対象とした漁業はない。定置網による混獲は主に沖縄本島から九州、四国太平洋沿岸で起きているが、商業的価値はないので、普通、放流か廃棄され、ほとんど市場に水揚げされない。

資源状態

日本に本種を漁獲する漁業はなく、資源を定量的に分析できる資料はない。しかし、全国の定置網に偶発的な混獲の記録等があり、また、まき網漁業のさめ付き操業の回数は1990年代に増大し、1996年から1998年では毎年200回を越えている。双方の情報を考慮すると、日本周辺海域には毎年かなりの数が来遊してくると考えられる。

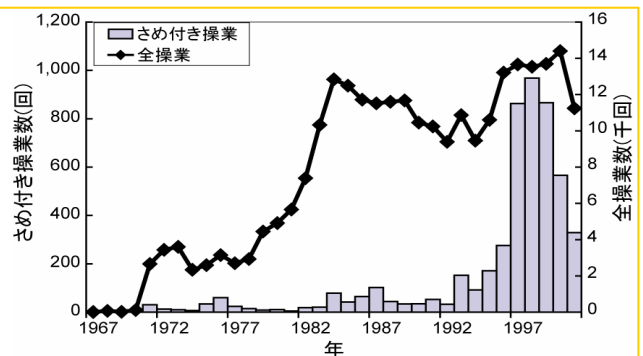
資源評価まとめ

定量的に分析できる資料はない



漁獲の動向

定置網による混獲は沖縄本島で1979~1994年の16年間に78尾(年平均4.9尾)、季節は3~9月で夏が多い。四国太平洋岸では1989~1993年の5年間で25尾(年平均5尾)、6・7月が最もおおい。日本周辺全体では毎年2~16尾程度である。



日本東沖漁場(常磐~三陸沖合)と南方漁場(フィリピン東方沖合)の、まき網と竿釣りの全操業数とさめ付き操業数

管理方策

過去の対象漁業による漁獲量と資源の減少、低い再生産率、そして将来の対象漁業と混獲による資源減少の可能性から、IUCN(国際自然保護連合)は本種を危急種に分類している。また、2002年のワシントン条約第12回締約国会議のインド、フィリピン共同の附属書II掲載案は可決された。我が国に本種を目的とした漁業はなく、積極的な漁獲努力もない。本種を偶発的に混獲する定置網漁業には、混獲情報を系統的に収集する仕組みがない。資源評価や保護施策実施のためには、情報収集システムの確立が急務である。

資源管理方策まとめ

ワシントン条約附属書IIへの掲載
情報収集システムの確立が急務

ジンベイザメ(日本周辺)の資源の現況(要約表)

資源水準	調査中
資源動向	調査中
世界の漁獲量	調査中
我が国の漁獲量	年間数尾から数十尾程度の混獲?